



ルー
テル

藤が丘だより

発行 月報委員会 発行日 2021年12月5日

No. 91

その日、その時、わたしはダビデのために
正義の若枝を生え出でさせる。
彼は公平と正義をもってこの国を治める。
エレミヤ 33章15節



礼拝献花より

御言葉に生きる

あなたの御言葉は、わたしのものとなり わたしの心は喜び躍りました。
エレミヤ書 15章16節b

ルター派キリスト教会 日本福音ルーテル藤が丘教会 牧師 佐藤和宏
〒227-0043 横浜市青葉区藤が丘 2-31-21 tel 045-973-2729/ fax 045-439-7009
URL:<https://www.jelc-fujigaoka.org/> mailto: fujigaoka@jelc.or.jp



シリーズ説教

『待ち人來たり』

牧師 佐藤和宏

ルカ25章25〜36節

待降節を迎え、教会の暦は新しい一年を迎えました。待降節第1主日、すなわち教会の暦における一年の最初の日曜日に、私たちはイエスがロバの子に乗って、エルサレム入城を果たす場面を聞いて来たわけです。そしてその意味するところは、クリスマスにお生まれになる幼子は、十字架の死を遂げられる主であることを覚えることであつたのでした。

一方、改訂された聖書日課ではルカによる福音書21章25節以下が選ばれています。「人の子が来る」と小見出しにありますように、再臨の主の到来を告げているのです。／この變更について、聞いていく。これが今日、私たちに求められていることにちがいありません。耳を傾けてまいりましょう。

「それから」と、今日の日課は始まっています。神殿の崩壊、終わりの日、迫害、エルサレムの滅亡と、苦難に

ついて記されたことを受け、「それから」と続いています。そのような流れを汲むと、「それから、太陽と月に星に徴が現れ」「天体が揺り動かされる」と続きますから、苦難と終わりの日の描写がさらに展開しているように思われます。ところが聖書は次のように続いているのです。「そのとき、人の子が大いなる力と栄光を帯びて雲に乗って来るのを、人々は見る。」つまり苦難と思われる状況の中で、人の子が栄光を帯びて来ると告げられているのです。苦難の中で、恐れと不安に惑う私たちがいるのですが、その苦難の中にいる私たちに向かつて、栄光の主が来られるというのです。

さて第一の朗読でお読みしたのは、エレミヤ書33章14節以下になります。この日課の背景を知るために、33章冒頭に目を向けますと、この言葉は、エレミヤが獄舎に拘留されている時に告げられたことがわかります。3節によると「あなたの知らない隠された大いなること」、これが苦難の中にあるエレミヤに、主なる神が告げられたことなのです。

今日の日課である14節では、これ

に対応するように「恵みの約束を果たす日が来る」と、「隠された」神の御心が明らかにされています。しかし主の言葉がエレミヤに告げられた、現状は誰の目から見ても、救いから遠いのです。遠いだけではなく、救いは実現しないように思われるただ中にあるのです。預言者自身も拘留されたままですし、人々はいつまでも続くように思われる、苦難の中にあるのです。恐れと不安にとらわれていて、絶望だけが目の前にある。これが現実なのです。しかしこれこそ「隠された大いなること」「隠された神」の御心なのです。私たち人間の目には、苦難とは大きな否定の中に置かれて見えて、それは救いという神の肯定から遠いと思えるのです。

現在、私たちはコロナ禍にあつて、苦難のただ中にあります。トンネルの出口が見えたような現状ですが、それでもまだ先行きは不透明に思われます。私たちはすべてが収束した後、苦難を脱し安心を得ると考えるのですが、聖書が告げているのは苦難のただ中に輝く、栄光の主なのです。私たちは恐れるのですが、聖書

はその困難の中に、栄光の主が来ると告げているのです。今私たちがなすべきことは、困難の中でむやみに恐れるのではなく、主の栄光の輝きを共に仰ぎ見ることでないでしょうか。そしてこれが、新しい一年の始まりに、私たちが耳にする福音なのです。

「正義」と訳されている同じ言葉は、日課の最後にある「主は我らの救い」と告げられている部分では「救い」とされているのです。神の正義は私たちが裁くのではなく、神の正義こそ私たちの救いということ、これが聖書が告げている内容になります。これこそ、神の肯定があらゆる否定を包み込んで肯定とするということなのです。私たちの信仰では、私たちの救いは、私たちの価値や努力によってもたらされることはなく、ただキリストの十字架にほかなりません。困難の中にあるとき、人はその理性のゆえに、神を見失うことがあるでしょう。そこに神はおられないと、私たちの目に映る現実の中に、深く隠された神の肯定があると、私

（待降節第1主日）

●私のスロウライフ ○藤○子さん

夜通しかけていたFMラジオから、ラジオ体操の曲が流れて来た。朝6時半、低血圧なので布団の中で曲に合わせて体操をする。45分には台所に立ち、具沢山の味噌汁、干物を焼き糠漬を出す、朝夕ご飯。昼はパン食。食は健康の源と、三度の食事。行儀は悪いが、テレビのニュースを見ながらモグモグ囓んでいる。

マンションの我が家は、7回の南西の角。9時頃、晴天の時は陽が中まで射し、部屋はサンルームのように暖かい。食後は新聞を広げ各面の記事を読み、そしてテレビ三昧。世界遺産、歴史、ドラマを観る。ベートーベンのように、音は聞こえるが話が分からなくなりテレビは字幕にしてある。語り手のニュアンスによっては変わって来るので、字幕ならはつきり。そして韓流ドラマを毎日のように見ている。バックに世界遺産のように美しい景色。脚本家の筋書き、セリフのやり取りで「ああこの言葉頂き」なんて言いながら、そして自分の歳を忘れて「ああイケメンだ」と見とれてしまう。これが私のストレス解消。2001年に夫は心筋梗塞で逝き、それからは一人暮らし。

不安な日が続いたが、良友に恵まれ色々な催しに誘ってくれ、心満たしている日々。

コロナで礼拝はグループ分けされたが、体の変調を感じると、出られるうちと、ときには別グループにも参加させて頂いている。説教を聞き、賛美歌を歌い、皆さんの笑顔を見て、ホッと心込み、溝ノ口へと帰宅。年を経て、



いつまで続くか分からないが、私の生活の一面。

●近況報告 山○○司さん

教会員の皆さま、お元気でお過ごしでしょうか。そろそろ二年になるというのに外泊、遠出は難しく、さらに対面での会話もままならず、私も含めて皆様まだまだ不自由を感じていること

と思います。私は散歩を毎朝夕しますが、近隣なので同じところばかりで、飽きてしまいました。一方、軽い

ものですが本をよく読むようになりました。また人的交流のほうは、幸いというか「ズーム」という新しいソフトを習得して、月に6〜7度程いくつかの古文書輪読会に参加しています。☺を通して、これらの仲間とはうまく会話ができています。私の体調ですが、2回のワクチン注射（2回とも左腕）の悪影響か、左脚関節に違和感を感じ、散歩は30分を過ぎると鈍痛を感じ、続けることが難しくなります。

整体師の治療を受けたり、柔軟体操のメニューを増やしたりして対応しようともがいています。まだまだリハビリ中です。コーヒーやビールを片手に、早く友と語り合うようになる時が来ればと思っています。どうぞ皆様心と体を整えて、神の御業を信じて待ちましょう。

●本美○子さんより

昨年来のコロナ禍にあつて「朝、鳥のさえずりを聞きながら目を覚まし、午前中は画集のページを繰りながらのんびりとお茶を飲み、午後は歴史の物

語の壮大な世界にとっぷりと浸りつつまたお茶を飲み、夜は静寂の中でイギリス・ミステリーに没頭しつつまたまたお茶を飲み、いつも心に八千草薫優しくゆったりと過ごし」たいものだと願いつつ、絶望の表情を浮かべる夫を横目で見ながら、眉間の皺を手で伸ばしつつ、昼夜パソコンに向かう毎日を送っております。

皆さまと御言葉に聞き、大きな声で讚美歌を歌い、お茶をいただきながらお話をさせていただけただけこれまでの日々が本当に貴重な神様からの贈り物であったと改めて感謝しています。

●森○○子さんより

ほかの断捨離、終活はなかなか進まないけれど、アルバムの整理だけは順調です。懐かしく楽しみながら数枚をピックアップして20×20センチ程の小さなフォトブックに仕上げます。もう大きなアルバムを心残りなく10冊ほど処分出来ました。まだまだ沢山あるけれど、この作業が楽しくて、ついつい夢中になり過ぎていると、愛犬のモちゃんが「遊んでよ〜!」と邪魔をしてくれて、お話をかけてきます。こんな日々を過ごしています。

主日礼拝ライブ配信の回想録

ー心地よさを目指してー

2
田○○夫

II 社会の動きの中で

コロナ・ウィルスの驚異は、当然のごとく教会活動にも波及し、今まで毎週実施されてきた日曜日の主日礼拝にも、大きな影響を与えることとなりました。それは、日常生活の一部として位置付けられていた当たり前の主日礼拝が、感染リスクを考慮するが故に大きな変更を余儀なく

され、また、教会によっては休止するという事態として顕れたのです。そして、その現実を目の当たりにした多くの信徒の皆さんは、主日礼拝がコロナ・ウィルスによって奪われてしまうのではないか、との焦りにも似た複雑な思いを抱きつつ毎日を過ごすこととなりました。

そんな信徒の皆さんの動揺に対し多くの教会は、速やかにネットを使った主日礼拝のライブ配信とそれを視聴する信徒の皆さんのネット環境の充実を図るべく、ハード・ソフト両面の環境作りに着手しました。

今月の受洗記念日の皆さん

2日 ○野○之兄 5日 ○辺○兄
○澤○子姉 8日 ○仙○姉
12日 ○藤○子姉 17日 ○井○樹兄
18日 永○子姉 19日 ○林○太兄
山○子姉、○野○兄、○澤○子姉
20日 吉○子姉、小○み姉、○嶋信兄
○田英○兄 21日 ○利○子姉、○井信○兄、○子姉
○谷○一郎兄、五十一○兄、○山○明兄 22日 長○川○瀬○美姉、田○○姉
市○○江姉、秋○○子姉、秋○○子姉、大○早○姉 23日 ○田○子姉、松○
○子姉、小○美○子姉、○飼○一兄、○藤○兄、○子姉、伊○○兄、○野○兄
○野○兄 24日 ○村○子姉、○原○輔兄、○谷○子姉、○野○子姉、○野光○兄
○野晶○兄、○野麻○姉、○山○郎兄、○山○子姉、○山○姉、○山○兄 25日
○木○子姉、○村○子姉、森○○子姉、○原○子姉、○原○太郎兄、江○○子姉
○本佳○兄、○藤○美姉、上○○美姉、定○○子姉 おめでとーございませう。



「あなたの御言葉は、わたしのものとなり
わたしの心は喜び躍りました。」エレミヤ書 15章 16節
毎日日教会ウェブサイト <https://www.jcfc-fujigaoka.com/>
フェイスブックで礼拝のライブ中継をしています。(毎日朝7時前10時)

それは抱かれた不安の解消と共に感染リスクを心配して礼拝に出席したくても控えてしまう方々と、そして教会活動に興味はあるものの参加することの出来ない人々へのフォローとして、積極的に始められました。

ネットの発達した現代社会では、当然の流れだとは思いますが、それ以上に今まであまり注目されていなかったであろう主日礼拝のライブ配信に対し、新たな宣教・伝道の手段としての役割を見出しつつ、今後の

■牧師室より

今回、教員、客員、求道者の皆さんに、アンケートをお願いしています。教会のこれまで、そしてこれからについてお尋ねしています。皆さんからの声をお寄せいただき、2度、3度繰り返す中で、皆さんの声を集約していく手法(αアルファイ法)を用います。これによって、これにより通常、届きにくい小さな声をお聞きする機会になりますし、互いに意見を分かち合い、選び取っていくことで、皆さんの声を形にしてい

くることが出来ると思われま

宣教方策を計画立案する上での力強いツールとして再認識されるようになったのです。
そのような動きの中で、藤が丘教会では感染拡大が始まる以前より主日礼拝のライブ配信に力を入れて実施しておりました。それは、Zoom(ウェブ)を利用した宣教と伝道の意義をいち早く認め、目まぐるしく移りゆく現代社会に対し確かなものをお届けしてゆく一つの手段として毎週配信していたのです。(続く)

これを今後の教会の宣教方策に活かすことができればと願っています。牧師や役員会が提示した方策ではなく、皆さんと共に作り上げていく方策を作ってまいります。「教会は全信徒の集まり」と、信仰告白にありますように、ルーテル教会では教会を人と考えます。ですから、藤が丘教会のこれからの歩みも、人である皆さんの貴重な声をいただきたい、それを形にしていきたいと思